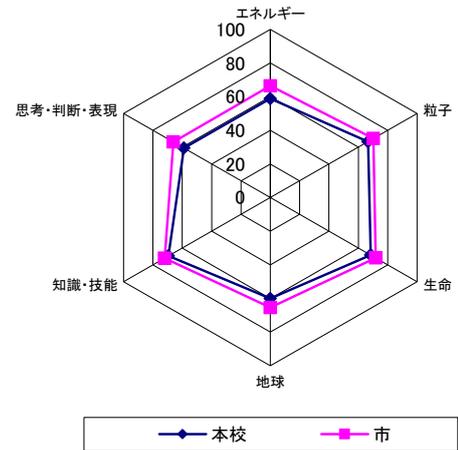


宇都宮市立陽南中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	58.9	66.5	61.2
	粒子	66.6	70.2	62.3
	生命	68.4	71.8	65.7
	地球	60.0	65.4	61.0
観点別	知識・技能	69.4	72.0	67.3
	思考・判断・表現	58.9	66.0	58.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>平均正答率は、昨年度より高い。</p> <p>○音の伝わり方の問題については、80%近い正答率を示している。</p> <p>●電流分野などの、数量や計算を伴う問題に対して正答率が低い傾向が見られる。</p> <p>●音の波形など、グラフの示す意味の理解不足が目立つ。</p>	<p>・エネルギー分野では、グラフの表現、読み取り、活用が重要である。実験ではグラフによる表現を、演習ではグラフの読み取り、活用の問題をしっかりと行っていく。その際、タブレット等の活用も有効と考えられるので、適宜利用を図る。</p> <p>・計算力の不足する生徒については、数学科とも連携しながら、計算力の改善を目指す。</p>
粒子	<p>平均正答率は、昨年度より高い。</p> <p>○実験器具の扱い方や実験操作に関する問題は、市の平均より高い。</p> <p>○気体の性質の内容については、市をやや上回るか、ほぼ同じ正答率が得られている。</p> <p>●中和のしくみについては60%以上の正答率が得られたが、それに伴うイオンの数の変化については42%程度で、深い理解に至っていない現状がある。</p>	<p>・今後も実験観察の操作については、しっかりと指導を継続し、机上の学習に終わらないよう、実地的な力を身につけさせていく。</p> <p>・粒子分野では、目には見えないものを、身近な存在として捉えさせることが有効である。今後は、分子やイオンのモデルを、タブレットを用いてアニメーションで示すなどの工夫が考えられる。</p>
生命	<p>平均正答率は、昨年度同様、他の領域より高い。</p> <p>○植物の分類の内容については、市をやや上回るか、ほぼ同じ正答率が得られている。</p> <p>○遺伝の規則性と遺伝子の内容については、市をやや下回るが、ほぼ同じ正答率が得られている。</p> <p>●記述式の解答に関して、正答率が低くなっている。</p>	<p>・身近な生物を直接観察することは大切だが、それらを同時に比較分類することは難しい。今後は、タブレットによる撮影機能や検索機能を利用することで、さらなる理解の向上を目指す可能性がある。</p> <p>・領域に関わらず、文章で解答することが苦手な生徒が多い。今後は、記述式解答の問題を集中して行うなどして、苦手意識の克服を目指す必要がある。</p>
地球	<p>平均正答率は、昨年度より低い。</p> <p>○気象分野では、市の平均を下回るものの、比較的良い正答率を得られている。</p> <p>●火山の噴出物から火山の特徴を考える問題については正答率が42%程度で、2つの関連性が理解できていない。</p>	<p>・火山や岩石は、比較的地味な印象のある題材である。火山については、美しさや恐ろしさを示す映像をそろえることで、岩石については、身近なところに使われている石材や、宝石、誕生石などに話題を広げることで、興味関心を高めていく。</p> <p>・街中ではあまり見られない露頭だが、タブレットを利用することで、模擬的な観察ができると考えられる。教材の工夫を考えたい。</p>